

No.	発言要旨	記載箇所	回 答
1	分娩取扱医師偏在指標はどのように計算するのか。	スライド 3 ページ	<p>分娩取扱医師偏在指標は、標準化分娩取扱医師数（分娩を取り扱う医師の性別、年齢ごとの平均労働時間を反映した医師数）を分子とし、分娩件数を分母として算出しております。</p> $\text{分娩取扱医師偏在指標} = \frac{\text{標準化分娩取扱医師数 (※)}}{\text{分娩件数} \div 1000 \text{ 件}}$ $\text{(※)標準化分娩取扱医師数} = \sum \text{性年齢階級別医師数}^{\text{a}} \times \frac{\text{性年齢階級別平均労働時間}}{\text{全医師の平均労働時間}}$
2-1	復職を果たした女性医師数 267 人の目標数値の設定根拠は何か。	スライド 12 ページ 骨子案 20 ページ	<p>計画修文</p> <p>過去5年間に、岡山県女性医師キャリアセンター事業（岡山大学への委託事業）により復職を果たした女性医師数の平均人数は 12 人／年であることから、これまでに復職した女性医師累積人数に次期保健医療計画期間6年間分を加えた人数を目標数値をとしておりましたが、次に記載するNo.2-2 の御意見を踏まえ数値目標を変更します。</p>

No.	発言要旨	記載箇所	回 答
2-2	働いてない女性の医師の数は把握できるため、その数から算定した方がいいのではないか。	スライド 12 ページ 骨子案 20 ページ	<p>計画修文</p> <p>国が実施する三師統計により、育児休業中や無職の女性医師数が把握できることから「復職を果たした女性医師数」の積算方法を変更し新たな目標数値を設定することします。</p> <p>(積算根拠)令和2年 三師統計 32人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育児休業中 令和2年：22人 ・ 無職の女性医師 令和2年：10人 <p>(目標数値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修正前 267人 ・ 修正後 285人
3-1	「県北の分娩数が減少する中、現在の分娩取扱医師数の維持が喫緊の課題となっている」とあるが、「令和8年の目標を現状維持」としている。喫緊の課題であるのに目標値を令和8年まで維持するとある。これは分娩数が減少することから、このような目標としているのか。	スライド 3 ページ 11 ページ	県では、医師、助産師等の医療人材が適切に役割分担をしながら、地域全体で周産期医療を支える持続的な周産期医療提供体制の構築を目指しており、分娩取扱件数の減少等、目標を現状維持としております。
3-2	①分娩を扱う医療機関が集中することは、県の政策として望ましいことか、それとももっといろんなところで分娩を扱うようにした方がよいと考えているのか。	スライド 4 ページ 10 ページ	周産期医療における医療提供は、産婦人科医と小児科医による連携が重要であり、医師、助産師等の医療人材ごとに適切な役割分担を踏まえながら、関係者と十分に協議をさせていただいた上で、持続的な周産期医療提供体制の構築を目指してまいります。

No.	発言要旨	記載箇所	回 答
	<p>②分娩はこれから社会事情も複雑になるため、分娩（可能な施設）は政策として集約し、小児科もいわゆる周産期として全体がチームを組めるような形にした方がよいのではないか。</p> <p>③小児科は、単に小児科として扱うのではなく、新生児は扱うが、周産期を扱う小児科の先生という感じで分ける政策がよいのではないかと考えているがいかがか。</p>		
4-1	<p>医師の高齢化は課題として認識できるが、保健医療計画に具体的な政策を記載することができるのか。</p>	<p>スライド 5 ページ 10 ページ 11 ページ</p>	<p>高齢化に伴う課題として医療提供体制の維持があり、笠岡諸島で実施しているオンライン診療実証実験の横展開の実施を素案に記載しております。</p> <p>なお、医療提供体制の維持のうち、医療アクセスや在宅当番医体制などの確保については、関係市町村等と連携した上で、今後検討してまいります。</p> <p>（参考）素案 P17, 18</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医師の高齢化等を受け、医療施設の閉院が進む中、診療所が担っている在宅当番医などの機能を、地域の拠点となる病院が担うことを検討します。 ○遠隔診療などについては、笠岡諸島で実施しているオンライン診療実証実験の横展開を含め、さらなる活用について検討します。 ○医師不足地域等において、後継者のいない医師が経営する診療所の継承を支援するため、後継者を探している医療機関と開業を希望する医師を登録してマッチングを行う県医師会の医院継承バンクの取組に協力します。

No.	発言要旨	記載箇所	回 答
5-1	女性医師の復職支援はどこに明記されているのか。また、どういう政策をお考えか教えていただきたい。	スライド 8 ページ 10 ページ	<p>女性の復職支援事業は、県医師会及び岡山大学に委託し、復職するための相談及び研修等を実施しており、今後も支援していきたいと考えております。</p> <p>〈参考〉素案 P18 ○岡山大学（ダイバーシティ推進センター）と岡山県医師会において、女性医師の離職防止と再就業を促進するために、相談、研修、医療機関への啓発等を行います。</p>
5-2	当院も、女性医師復職支援小委員会を立ち上げ、倉敷中央病院が良いモデルケースになっている。そういった取組を積極的に吸い上げていただき、それを書いていただきたい。		<p>倉敷中央病院では、男性医師も含めた女性医師の働き方などを考えるワーキンググループがあり、妊娠後・出産後1年間の当直時間外勤務は原則全員免除など、病院全体で復職支援に取り組まれているとうかがっております。これについては、個別の取組であるため、計画への記載までは考えておりませんが、県が実施する啓発等での情報発信において参考とさせていただきます。</p> <p>〈参考〉素案 P18 ○岡山大学（ダイバーシティ推進センター）と岡山県医師会において、女性医師の離職防止と再就業を促進するために、相談、研修、医療機関への啓発等を行います。</p>

No.	発言要旨	記載箇所	回 答
6-2	一般枠の婦人科の研修もやはり、研修がない。岡山に(研修できる場所がないから大阪へいったが、帰って来られなかったりする。ぜひ大きいところで産科の研修を実施していただきたいと思う。	スライド 6 ページ	各病院の初期臨床研修プログラムでは、県内外の連携施設が設定されており、一定程度の臨床研修医が県外の連携施設で研修を受けているところです。その状況を確認したうえで、臨床研修医の県内定着に向け、各臨床研修病院と協議してまいります。
8	資料に「県内定着策を検討」と記載があるが、具体的に何か検討されているのか教えていただきたい。義務年限が終了した後の定着に対するアプローチはないのか。	スライド 6 ページ 9、10 ページ	これまでも自治医科大卒業医師の義務年限終了後以降の勤務について、県内での勤務を働きかけておりましたが、今後は地域枠卒業医師も含め義務年限の終了前から、地域の病院の魅力について市町と連携し作成したパンフレットで情報提供し、義務年限終了後も地域の病院で勤務していただけるような流れを作っていきたいと考えております。 (参考) 素案 P17 ○義務年限終了後の自治医科大卒業医師及び地域枠卒業医師に対して地域の医療ニーズを伝える場を設けるなど、県内定着を促進します。
9-1	今後、義務年限が終了する地域枠卒業医師は増えてくるため、そこをコントロールする持続的な人間関係が必要と思っている。 地域枠卒業医師の義務年限中に、医局及び科との人間関係を構築させるようにしていただくのはどうか。	スライド 6 ページ 9、10 ページ	医局への入局は地域定着の手段としても考えられることから、選択肢のひとつとして、本人の希望を踏まえ医局へ紹介を検討してまいります。
10-1	主な課題と政策の方向はいろいろあるが、以前からある政策であり新しい施策でない。今までの事業実施状況はどうだったのか。	スライド 9 ページ 10 ページ	現行計画の事業実施状況は、毎年度、数値目標の達成状況や施策の取組状況を評価し、県医療審議会に報告した上で、県ホームページで公開しております。

No.	発言要旨	記載箇所	回 答
	<p>目で見えるような形にさせていただき、いわゆるPDCAが回るような形での協議もあってよいかと思う。</p>		
11-1	<p>自治医科大卒業医師あるいは地域枠卒業医師について、何人中何人がどこの医局に入局したというデータがある程度出してもらうのはどうか。</p>		<p>自治医科大卒業医師、地域枠卒業医師の医局入局状況について、今後把握できるよう努めてまいります。</p>
13	<p>遠隔医療等が進んでいる笠岡市では既に試行されているが、一方でモバイルクリニックも試行されており、遠隔医療も、もう少し踏み込んで、必ずできそうだと思う内容には具体的に記載いただいた方がよいと思う。骨子案の最後にある図に多少そういった内容を追加することはできないか。</p>	<p>骨子案 19 ページ 図 10-1-1-26</p>	<p>計画修文 笠岡諸島で実施しているオンライン診療実証事業のスキーム図を追記いたします。</p>

No.	発言要旨	記載箇所	回 答
16	医師免許を持たれているが、仕事をされていない高齢の先生方に地域の魅力を伝えて地域で働いてもらえるようなコース（仕組み）がない。	スライド 5 ページ	現在、医院継承バンク事業を実施しておりますが、それとは別に高齢の勤務医に対し、地域の診療所勤務を提供するような働きかけを検討してまいります。